

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援施設 アムール			
○保護者評価実施期間	2025年8月5日 ～ 2025年8月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19人	(回答者数)	15人
○従業者評価実施期間	2025年9月1日 ～ 2025年9月12日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	17人	(回答者数)	17人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年9月12日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	幅広い年齢層への対応 未就学児から小学校低学年までの子どもに合わせたプログラムを提供し、それぞれの発達段階に応じたサポートが可能である。	活動記録の充実と共有 日々の活動や子どもの様子を丁寧に記録し、家庭や園と共有することで成長をともし見守れる仕組みを整えている。	保護者サポートの拡充 ペアレントトレーニングや相談会を取り入れ、家庭と一体となった発達支援を進める。
2	個性性を尊重した支援 一人ひとりの特性やペースに応じた関わりを行い、子どもが「できた」という達成感を積み重ねられる環境が整っている。	遊びと学びを組み合わせたプログラム 遊びを通して自然に学びにつながる活動を取り入れ、楽しみながら心と体の発達を促している。	療育的要素の強化 保育的な活動に加えて、療育的視点を明確に取り入れたプログラムを充実させる。
3	教育環境との連携と活用 幼稚園との連携や園庭の活用により、多様な活動環境を確保し、心身の健やかな発達を支える体制が整っている。	職員体制を活かした柔軟な対応 職員数が多く、連携しながら臨機応変にサポートできる体制を整えている。	職員スキルアップと理念共有 定期的な研修や事例検討を行い、専門性の向上と理念の共通理解を深める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者支援の機会不足 ペアレントトレーニングや学びの機会が少なく、家庭への支援が限定的である。	事業拡大に伴う体制整備の遅れ 職員数は確保しているが、役割分担や理念の浸透が十分でない。	保護者交流・学びの機会の定例化 ペアレントトレーニングや懇談会を定期的に実施し、家庭と協力しながら子どもの成長を支える。
2	療育的要素の比重が高い 保育士が多い体制により生活面や遊び中心の活動は充実しているが、療育的視点をさらに取り入れる必要がある。	職員構成の偏り 保育士が多いため、療育的な視点が薄まりやすい。	専門性向上と多職種連携 療育的視点を学ぶ研修を充実させるとともに、心理士・療法士など外部専門職との協働を進める。
3	情報共有の正確性の課題 職員数が多いことから、情報や記録の共有が十分に正確に行われない可能性があり、対応に差が生じる場合がある。	情報伝達の複雑化 職員数が多いため、口頭や個別連絡のみでは伝達に偏りや抜け漏れが生じやすい。	情報共有の仕組みづくり 記録方法の統一やICTツールの活用、定例ミーティングなどを通じて、情報を正確かつスムーズに共有できる体制を整える。